

所信表明の概要

副議長に立候補した橋本由美子です。

今回の立候補にあたって、多摩市議会基本条例を読み返しました。議長も副議長も、議会基本条例に示された、議会の役割とそのありかたを尊重し、その精神を達成するために存在し、みなさんと協力しながらすすめていく役割を担っています。私は、副議長職は、議長職を支えるという面はもちながらも、ひとつひとつの事案に対してしっかり考え、時には議長としっかり話し合いながら、多摩市議会としての方向性を熟慮しながら判断していく場面もあると考えています。

議会基本条例ができて13年になります。条例には、「多摩市議会は、市民のみなさんにもっとよく見え、わかりやすく、市民が参画できる議会に、そして、合議機関として市民と一緒に考えながら、さらにしっかりと議論ができる議会に改革していきたいと決意しました。」とあります。私たち議員は、その持つ意味を深く認識し、不断の努力を続けることが重要です。この間の「新型コロナウイルス感染症」への対応のなかで、「傍聴」も「市民との懇談」もやはり大きく後退した部分があります。「よく見え、わかりやすく、市民が参画できる議会」をお飾り的な言葉にしないために、もう一度基本条例制定時の思いに立ち返り、新たな努力を重ねていきましょう。私はそのことを積極的にすすめていきたいと思えます。

もう一点は、ジェンダー問題への認識の発展を「人権問題」と受け止め、障がいを持つ人、外国籍を持つ人もふくめ、お互いに理解し、暮らしやすい多摩市をつくっていくために、議会として力を出し合い、前にすすめていきたいと思えます。今回多摩市議会は、26人中、女性議員は11人となり、4割を超える比率となりました。でも、実際には日本のジェンダーギャップ指数は世界の動きに比べ大きく立ち遅れています。市民生活のなかでも、「女性だからあきらめる」「女性の貧困は深刻」等という言葉が耳にします。また、障がいをもつ人が暮らしやすい社会かと問われると、不十分さが残され、それを打開する手立ても緒についたばかりという現実も多くあります。市民の負託を受けた議員は、市民の生活に中にある「困難」を自らのものとして考える、その努力を議会全体で進めることを忘れてはならないと思えます。

議会に課された「市長への監視および評価」の役割は当然の仕事ですが、私たち議会および議員も市民から「監視および評価」されています。そのことを肝に銘じ議会運営に全力をそそぎたいと思えます。みなさんのご理解とご協力をお願いし、私の立候補表明といたします。